

人口オーナスをICTボーナスで解決し 知の宿場町こおりやまを目指す

日本遺産 一本の水路のストーリー

郡山市は、福島県の中央に位置し、北に高村光太郎の詩集「智恵子抄」で知られる安達太良山、東になだらかな山々が連なる阿武隈高地、西に国内第4位の広さを誇る天鏡猪苗代湖など緑豊かな自然に囲まれた都市です。一方で、



安積疏水麓山の飛瀑

JR東京駅から最短で77分というアクセスの良さに加え、鉄道、高速道路がそれぞれ縦横に交差するなど、人、モノ、情報が交流する広域拠点都市として発展を続けています。

明治維新後、50000人のまちに全国から約20000人が入植し行われた、わが国初の国営農業水利事業である安積開拓・安積疏水の開さく事業が、本市における近代の発展の礎となっています。猪苗代湖から奥羽山脈を突き抜け、郡山を潤す一本の水路である安積疏水の完成は、農業を盛んにし水力発電による紡績など新たな産業をもたらしました。このストーリーが平成28年4月に「日本遺産」として文化庁に認定されるとともに、11月には安積疏水そのものが国際かんがい排水委員会の「世界

人と地域がつながる 6次産業化の推進

かんがい施設遺産」に登録されるなど、本市の歴史に息づく価値が日本そして世界に認められました。

平成27年2月、本市は公益財団法人三菱商事復興支援財団と「果樹農業6次産業化プロジェクト」にかかる連携協約を締結しました。同財団がワイナリーを建設し、福島県産果実でワインやリキュールを製造・販売します。そのため本市では、ブドウ生産農家を育成し、ワイナリーの将来的な運営を地元が主体的に取り組むなど、果樹農業の復興を実現するとともに、遊休農地の活用や雇用促進を通した新農業都市を目指しています。また、安積疏水の完成により多くのため池が整備された本市は、

鯉の生産量全国1位を誇っており、このような中、キリングループの復興支援活動「キリン絆プロジェクト」のご支援をいただき「鯉に恋する郡山プロジェクト」を立ち上げ、現在、地元大学などとの連携や、ハンガリーをはじめ中東欧の鯉を食する国々との交流による商品開発など、多くの方々への英知と思いを紡いだイノベーションによる6次産業化を推進しています。

未来を見据える ICTフル活用

児童生徒の情報活用能力の育成と学力の向上に役立てるため、平成27年9月に、すべての小・中学校にタブレット端末を導入しました。本年度には特別支援学級の児童生徒に1人1台のタブレット端末を配置するとともに、ネットレビ会議システムを利用した市内の小中学校間での交流事業の検証も開始しました。

また、平成28年1月から、情報

投稿アプリを使い、道路の陥没や防犯灯の故障などを市民がスマートフォンで撮影・投稿し、市役所に情報を提供するシステム「ココナビ」も開始しました。

国の第5期科学技術基本計画では、「超スマート社会」を未来の姿として位置づけ、その実現に向けた取り組みを「Society5.0」として推進することが明記されました。

IOT(モノのインターネット)、ビッグデータ、AI(人工知能)など、新たなICTボーナスのフル活用は、人口減少社会における社会的課題の解決はもとより、さら



すべての小・中学校にタブレット端末を導入

に豊かな社会を構築するツールであること、確信しており、われわれもICT世代の胎動を強く感じる中、「Society Koriyama 5.0」を推進していきます。

市民の負託に応えるための 行財政改革

本市では平成27年度から企業会

計の手法を採り入れた複式簿記・発生主義による新公会計制度を導入しました。これまでの決算書では見えにくかった資産や負債などのストック情報や減価償却費などの現金支出を伴わない費用を含むフルコスト情報を明らかにし、市民に説明責任を果たしながら行政評価や予算編成への活用などを進めています。

また、市が保有する土地、施設を有効に活用することは、新たな財源確保の観点からも有効であり、未利用財産の売却、貸し付けを積極的に行い、売却益や固定資産税の確保を進めております。平成28年は開成山野球場をはじめとした5つの施設についてネーミングライツの募集を実施するとともに、郡山市総合地方卸売市場用地の貸し付けも進めるなど、公有財産の効率的・効果的な活用も積極的に実施しています。

復興から創造へ

平成29年春にはJ-R磐越西線の郡山富田駅が供用を予定し、また、市内5カ所目となる郡山中央スマートインターチェンジの設置など、交通インフラのさらなる整備

を進めています。震災後に減少した人口も増加傾向で推移するとともに、多くの企業や研究所が立地されるなど、復興から創造へ力強い歩みを感じています。本市は未曾有の災害にも一丸となって立ち向かうフロンティア精神に溢れた市民とともに、交通のハブという地の利を生かし、多くの企業、研究機関、そして教育機関が集積・交流し、情報を発信する「知の宿

プロフィール

- ◆ 面積 757・20 km²
- ◆ 人口 32万6993人
- ◆ 世帯数 13万8919世帯

〔まちの特徴〕東京から東北新幹線で最短77分、鉄道や高速道路がクロスし、農商工がバランスよく発達した南東北の中核都市

〔特産品〕郡山産米「あさか舞」、鯉、うねめ牛、梨、御前人参、阿久津曲がりねぎ、布引高原大根、銘菓

〔観光〕猪苗代湖、郡山布引風の高原、



郡山市長
品川万里



〔イベント〕七日堂まいり、郡山シティーマラソン、サマーフェスタKORIYAMA、郡山うねめまつり、萩姫まつり、つるりんこ祭

場町」を目指します。郡山の西の天空にあり、猪苗代湖から奥羽山脈を突き抜けた「一本の水路」。新たな産業を次々と生み出し、人々の生活と都市の発展を支えてきたその流れは、130年を経過した現在においても市民に豊かな潤いを与えています。われわれもまた災害を乗り越え、将来世代のためのレガシーを創造していきます。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

住む人が輝き、来る人がやすらぐ まちづくりを推進

歴史とロマンの 溢れるまち大田原

わが大田原市は、栃木県北東部に位置し、東北新幹線で東京から1時間10分、駅から車で20分と、遠くにあるようで実は都心への通勤圏内にあります。人口約7万5000人、北に那須連山、日光男体山と東に八溝山系、南は関東平野が広がり、市内には箒川、蛇尾川、余笹川を合流した清流那珂川が流れる山紫水明の郷です。気候は温暖で、冬の寒さがピリッと身を引き締めますが、本当に過ごしやすい地域です。八溝杉は銘木として名を馳せ、「太山の佐知」をはじめとした興野家所蔵の古文書は、(一社)日本森林学会第1号の林業遺産に選定されています。本市には、育林技術が引き継がれて



天然鮎のメッカとして多くの釣り人に愛される那珂川

おり、豊かな山林資源に恵まれています。また、本市の誇れる国宝那須国造碑は日本三古碑の一つとされ、水戸藩主であった徳川光圀によって安置されたものです。周辺には古墳群があり、その中でも下侍塚古墳は、その大きさ、美しさからも古代のロマンが感じられ、人びとの聖地となつていきます。那須与一をはじめ、坂上田村

麻呂、源義家、松尾芭蕉も訪れた国の重要文化財の那須神社もあり、古くからこの地に先人たちが住み、歴史と伝統をはぐくんできた地域です。

少子高齢化対策 すべては子どもたちの 未来のために

さて、本市の今日の姿は、東日本大震災の傷跡もほぼ復旧され、平穏な日々の中、少子高齢化対策に日々奮闘をしています。健康長寿の現役人生が、本人にとっても最も幸せなことであり、各種の健康政策やグラウンド・ゴルフ場の整備を進めるほか、市内24カ所に設置された「高齢者ほほえみセンター」では、高齢者の生きがいと社会参加を促進するとともに、心身の衰えや閉じこもり防止を目的

として、各種の介護予防事業を推進しています。
また、市内全域に12の高齢者などの見守り組織(地域大家族)が編成され、住み慣れた地域で一人暮らしでも安心して暮らせるまちを実現しています。

私の重要な政策の一つとして、「すべては子どもたちの未来のために」を掲げ、厳しい財政の中ではありますが、小中学校の給食費の無料化を実施しています。保護者の経済的負担の軽減と併せて、働くことの喜びと納税の大切さを子どもたちに教え、感謝の心と、立派な志を持った大人に育ってほしいとの願いを込めた施策となっています。また、全小中学校にタブレットを配備し、すべての教室でパソコン利用を可能とし、ICT教育を推進しています。平成28年からはプログラミング教育も取り入れています。学童保育館、幼稚園、保育園などの環境整備も着実に進め、子どもたちの未来への先行投資を積極的に進めています。

本市の産業と 定住自立圏構想

農業については、担い手不足対策として大規模基盤整備事業を7カ所、約1000haを目途に事業を推進し、集積を図りながら担い手を育成する「楽農」の実現を目指しています。

本市には、とても美味しい特Aの米3品種、白美人ネギ、ナスの美なす、ニラ、春香ウド、桃太郎トマト、アスパラガス、ニンジン、にっこり梨、固有品種のとうがらし「栃木三鷹」、養鶏、養豚、酪農、大田原牛、与一和牛、熟成肉のほか、美酒の蔵元が6カ所あるなど、ブランド食料の生産地であります。また、豊かな農村環境を生かした新たな観光産業へチャレンジしており、農家民泊を進めるグリーンツーリズムが成果を上げています。体験研修を目的に、国内はもとより国外からも多くの方々を訪



那須与一を称える、大田原市恒例の夏祭り「与一まつり」

かした新たな観光産業へチャレンジしており、農家民泊を進めるグリーンツーリズムが成果を上げています。体験研修を目的に、国内はもとより国外からも多くの方々を訪

れてきています。

商工観光について、本市は「お祭りのまち」でもあります。正月にはどんと祭、春にはさくら祭が各所で行われ、大田原屋台まつり、くろばね紫陽花まつり、黒羽芭蕉の里全国俳句大会、夏には与一まつり、各種アユ釣り大会、佐久山納涼花火大会、那須野が原国際芸術シンポジウム、秋には天狗王国まつり、大田原市産業文化祭、花を愛でる大田原市菊花展、全国竹芸展、各地域で行われる文化祭、佐久山御殿山紅葉まつり、大田原マラソン大会、芭蕉の里くろばねマラソン大会など楽しみ満載です。商店街では一店逸品運動が展開され、創業支援塾などの創業支援制度の充実により新たな事業を興し、元気が出てきています。誘致企業には多様な業種があり、雇用の安定、所得の確保がなされています。これからも地域資源を生かした循環型農林業の推進、ICT産業、ロボット産業などの誘致を進めてまいります。

本市には、医療福祉の専門職の養成を目指した総合大学である国際医療福祉大学があります。当大学は、本年の4月に成田市内に医

学部開設を予定するなど、国内では一番元気のある大学です。市内には総合病院である那須赤十字病院もあり、医療福祉の分野でも田舎の割には先進地ではないかと自負するところです。また、周辺自治体との連携事業として、本市が中心市となり形成する八溝山周辺地域定住自立圏（3県にまたがる8の自治体）と隣接する那須塩原

市を中心市とする那須定住自立圏の重複指定を受け、地方圏における人口定住の取り組みを積極的に進めています。これからも、住む人が輝き、来る人がやすらぐまちづくりを、知恵と愛のある協働互敬の精神で進めてまいります。本年も皆さまにとりまして幸多い年でありますよう心よりご祈念申し上げます。

プロフィール

- ◆面積 354.36km²
- ◆人口 7万5099人
- ◆世帯数 2万9073世帯

〔将来都市像〕住む人が輝き 来る人がやすらぐまち 知恵と愛のある協働互敬のまち

〔まちの特徴〕那珂川と箒川に囲まれた那須五峰から広がる扇状地で水と緑の豊かな自然に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成17年10月1日、湯津上村、黒羽町を編入合併



大田原市長
津久井富雄



〔特産品〕とうがらし、大田原産和牛、鮎、地酒、白美人ネギ、与一すいか

〔観光〕那須神社、那須国造碑、雲巖寺、女性寺（那須与一公の墓）、那須与一伝承館、黒羽芭蕉の館、大田原市なす風土記の丘湯津上資料館、栃木県ながわ水遊園

〔イベント〕与一まつり、天狗王国まつり、くろばね紫陽花まつり、大田原マラソン大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

向日市(京都府)

わが

歴まち認定を契機に ふるさと「向日市」の創生を!

古都のむこう 魅力のふるさと

向日市は京都府の西南部に位置し、面積が7・72km²という西日本で最もコンパクトな市ではありませんが、国の重要文化財に指定されている向日神社をはじめ、国指定史跡である長岡宮跡および乙訓古墳群、さらには江戸時代の石造物が街道沿いに数多く残されている西国街道など、歴史・文化資源が豊富に存在しています。また、「全



「全国遊歩百選」「京都府文化的景観」に選出された竹林道「竹の径(みち)」

国遊歩百選」に認定され、「京都府文化的景観」にも選定されている竹林道「竹の径(みち)」、条里制の跡が明瞭に残る水田、昭和初期に造成された住宅地の桜並木「桜の径(みち)」などが四季を感じることでできる美しい景観を形成しています。

歴史を活かしたまちづくり

私は平成27年4月に就任しましたが、それ以来、住民の皆さまにとって「魅力があり誇れるまち」にするために、さまざまな施



「むこう、むこう。」のポスター第1弾「古代衣装の貴婦人編」

策に取り組んでいます。その一つが「歴史を活かしたまちづくり」です。

本市は、有史以前から人が住み、縄文・弥生時代および古墳時代の遺跡をはじめ、古代から連続と受け継がれてきた歴史・文化資源が豊富に存在しております。中でも、西暦784年には「平城京」が「長岡京」に遷都されましたが、現在の向日市鶏冠井町には、当時わが国の政治や経済、文化の中心として栄えた「長岡京」の主たる史跡である大極殿跡、朝堂院跡など多くの文化財があります。

幸いなことに、それらが高く評価され、平成27年に全国で47番目、京都府では3番目となる「歴史的風致維持向上計画」、いわゆる「歴まち計画」が国から認定されたことを契機に、「歴史を活か



古都のむこう 魅力のふるさと
長岡宮の大極殿と特産の竹をあしらったPRロゴマーク

向日市長 安田 守

したまちづくり」に現在取り組んでいます。

「ふり向けば、気になる。好きになる。」をキャッチフレーズに、シリーズ化したポスター「むこう、むこう。」の作成や、長岡宮の大極殿と特産の竹をあしらったロゴマークの策定、ピンバッジの販売、ご当地ナンバープレートの交付など、市民の皆さまにまちの魅力を「再発見」していただくのもちろんのこと、本市を訪れた皆さまと、これから向日市に来られる皆さまに「何度でも」本市に足

を運んでいただけよう、戦略的に市の歴史や文化をPRし、積極的に情報発信しています。

また、本市の歴史・文化・産業など、さまざまな分野から出題する「向日市ふるさと検定」を、来る本年2月に実施いたしますが、この検定を通し、市民の皆さまがこれまで気付かなかった市の魅力や特徴を再発見することで、自分たちが住んでいるまちに誇りと愛着を感じ、「ずっと住み続けたい」と思っていただけのように、また他市から検定を受けてくださる皆さまには「いつかは住みたい」と感じていただけるように、と考えております。

ポテンシャルを活かした土地利用

住んでいる人にとって「魅力のあるまち」であるためには単に「誇りと愛着を感じる」だけではなく、「生活をする上で便利なまち」であることも重要です。

今までの市の施策は「出るを制す」を柱に考えられていましたが、今後は雇用の創出と税収増加につながる施策を展開することで、住民の皆さまの利便性を向上させる

必要があります。

本市では従来から都市近郊農業が盛んであり、作り手と栽培行程が見える「安心安全」な農作物は私たちの誇りでもありますが、一方で、耕作面積が少なく農業で生計を立てることが非常に難しいこともあり、多くの営農者の方が後継者不足に悩まれております。本市の農地はほぼすべてが市街化調整区域ですが、駅近郊の非常に利便性の高い場所に位置しております。

そこで、地権者の皆さまの思いや考え方に添いながら、駅近郊のポテンシャルの高い土地を有効活用すべく、地区計画制度を活用した土地の高度利用を図りたいと考えています。

有効に土地を利用することで、企業の進出などによる税収の増加や、雇用の創出など、地域経済活性化はもちろんのこと、市民の皆さまの利便性の向上や、ひいては定住促進にもつなげていきたいと考えています。

すべての市民の皆さまの「ふるさと」に

本市は、豊富な歴史を有し、交

通の利便性が高いまちですが、それだけではなく、古くから人が住んでいたことに加え、明治22年の町村制施行以来一度も合併していないこともあり、地域活動が「学区」単位ではなく、町村制施行前の旧村を元にした「地区」単位で行われています。

そのため、古くから伝わるさまざまな行事や、地域のためのボランティア活動が盛んで、非常に地域のつながりが深いまちであります。

ます。

このような古き良き伝統を大切にするとともに、交通の利便性、歴史資産の豊富さなど、まちの特徴を十分に生かしながら、新たなまちづくりへの挑戦など、市民の皆さまに「見える」施策を積極的に展開し、すべての市民の皆さまが本市のことを「ふるさと」であると思っていただけのように、職員と一丸になってまちづくりに全力で取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 7.72 km²
- ◆ 人口 5万5651人
- ◆ 世帯数 2万4141世帯

〔将来都市像〕歴史を活かしたふるさと向日市の創生

〔まちの特徴〕市域面積に対する人口密度は京都府内で最も高いが、身近に自然を感じられるまち

〔特産品〕たけのこ、なす、竹工芸品、



向日市長
安田 守



懸崖菊、ポインセチア
〔観光〕向日神社、竹の径、桜の径、史跡長岡宮跡、史跡乙訓古墳群、西国街道、京都向日市激辛商店街
〔イベント〕向日まつり、竹の径・かぐやの夕べ、桜まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

観光を産業の柱の一つに

三原の素顔

三原市は、中国・四国地方のほぼ中心、広島県の中央東部に位置し、瀬戸内海を臨む温暖で風光明媚な歴史と自然に囲まれたまちです。また、古くから近畿と九州を結ぶ交通の要衝として発展し、明治時代以降は繊維・機械産業の大手企業の工場立地により三原地



三原城を築城し城下町・三原の礎をつくった小早川隆景公像

域が近代工業都市として発展したほか、本郷・久井・大和地域は米作地域としての役割を果たしてきました。そして、平成17年3月、1市3町が合併し、本市はさまざまな歴史、多くの地域資源を持つまちとして誕生しました。

人口減少・少子高齢化が進み、地方創生が進められていますが、本市が将来にわたり活力あるまちであり続けるためには、現状に満足することなく挑戦し続けることが必要です。

本市にはJR山陽本線・呉線に山陽新幹線、国道2号に山陽自動車道、三原港・尾道糸崎港に広島空港と優れた交通結節機能があります。このような交通機能に加えて、市内には8つのゴルフ場があり、年間約30万人の利用がありますが、平日のプレー客をプレー前

後に近場のスポットへ誘導し、また県外から休日にお越しになられた方には、宿泊を含め充実した休日を過ごしていただけるようなプランを検討するなど、交通機能と資源をうまく結びつけることで、さらにヒト・モノ・カネを呼び込むことができる大きな可能性を秘めています。

今、本市は、これまでのまちづくりに加え、誰もが気づいていない資源となる原石を掘り起こし、磨き、輝かせることで、まちの魅力を一層高めることを目指しています。

小早川隆景公の存在

1567年、毛利元就の三男にあたる小早川隆景公が、三原城を築城しました。この城は、「浮城」とも呼ばれ、豊臣秀吉や徳川家康も泊まったと伝えられています。

この三原城が平成29年に築城450年を迎えることを契機に三原の魅力を磨き、市全体で観光客をおもてなしすることで観光交流人口を増やし、観光がまちを支える産業の柱の一つとなるよう「瀬戸内三原 築城450年事業」に取り組んでいます。

現在、『きてみて三原！石のうえにも450年』をキャッチフレーズに、観光資源を「三原の歴史や文化を観よう、魅せよう」「瀬戸内三原を観よう、魅せよう」「三原のひとを観よう、魅せよう」の3つに区分してさまざまな取り組みを行っています。

三原の礎を築いた隆景公の魅力、城下町としてのまちの魅力、食の魅力、眺望の魅力、さらには市民や各種団体との協働により磨き上げた観光資源を市内外へ魅せていきます。

築城450年事業の取り組み

隆景公といえは、毛利元就の三

男であり、長男の毛利隆元、次男の吉川元春とともに三矢の訓で有名です。

本年2月からの築城450年事業の本番に向け、平成28年3月には、毛利元就の長男、次男、三男のゆかりの地である安芸高田市、北広島町、本市の2市1町で広域観光を目的に「三矢の訓協定」を締結し、相互連携を図っています。そして、12月には2市1町共同プロモーションとして、お城エキスポ2016に出展することで、全国へ向け毛利ゆかりの地をPRしました。

平成28年10月には、地元の経済同友会と市の共催で三原城跡の壕の清掃活動を行い、小雨の降る中、大勢の市民が「かいぼり隊」としてボランティアで参加してくれました。さらに、三原城跡周辺をかつての西国街道をイメージして整備しており、1月末に完成の予定です。また、浮城をイメージできるように石垣のライトアップや、「鯉の城下町構想」として濠に鯉の放流などを計画しています。

さらに、小早川隆景公が築いた三原城を中心に、歴史や文化、観光地を紹介した「みはら歴史館」

を三原駅前オープンしました。三原城の完成を祝って踊り出したことが始まりとされる8月の三原やつさ祭りに430年余の歴史ある2月の三原神明市「ダルマ市」。この2大祭りに加え、11月の三原浮城まつり、5月の三原さつき祭りを加え、本市の4大祭りも築城450年を機にさらに磨き上げます。

おわりに

いよいよ築城450年事業の本番となりますが、事業の成功に向けて毛利三本の矢にちなんで、次の3つの矢に積極的に挑戦し



「瀬戸内三原築城450年事業」プレオープニングセレモニー

ます。1本目の矢、「三原の魅力の再認識」です。市民がふるさと三原の魅力を再認識し、協働の取り組みやおもてなしの充実、観光産業の発展を目指します。2本目の矢、「三原のブランド化」です。先人が残した歴史的、文化的遺産を前面に押し出してお客さまを呼び込み、三原のブランドづくりを図ります。3本目の矢、「集客の基盤整備」です。広島県内、近隣県

プロフィール

- ◆ 面積 471・55 km²
- ◆ 人口 9万7154人
- ◆ 世帯数 4万4184世帯

〔将来都市像〕 行きたい 住みたい つながりたい 世界にはばたく 瀬戸内元気都市みはら

〔まちの特徴〕 陸・海・空の交通機能が揃い、島あり、街あり、高原ありの暮らしやすいまち

〔市町村合併〕 平成17年3月22日、旧



三原市長
天満祥典



三原市と本郷町、久井町、大和町が対等合併
〔特産品〕 三原だるま、地酒、タコ、わけぎ、白桃
〔観光〕 佛通寺、筆影山、竜王山、三景園、果実の森、三原市宇根山天文台
〔イベント〕 三原さつき祭り、三原やつさ祭り、三原浮城まつり、三原神明市

でさらに認知度を向上させるとともに、観光消費額の増加を図ることで、多くのお客さまを呼び込む基盤づくりを進め、観光客数や消費額の事業目標の達成を目指します。そして平成30年以降も、観光のまち三原として「行きたい 住みたい つながりたい 世界にはばたく 瀬戸内元気都市みはら」を実現します。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。